

蔵王小学校校歌について

今年も卒業式、入学式の季節となりました。長引くコロナウイルス感染状況により、残念ながら、セレモニーも例年より縮小して実施される予定です。ただそのセレモニーの中でも欠かせないのが、「校歌斉唱」ですね。

蔵王小学校の校歌は、

作詞 葛原 しげる (くずはら しげる) 作曲 弘田 龍太郎 (ひろた りゅうたろう)

により作られました。昭和2年(1927年)3月とのことです。

葛原先生(1886~1961)は、ご存じの方も多いと思いますが、「ニコピン先生」と呼ばれ慕われた神辺町八尋出身の先生です。戦前、戦後を通じて3000以上の童謡を作詞されました。中でも「夕日」は「ぎんぎんぎらぎら夕日がしずむ」の歌いだしてはじまる有名な歌です。

また、全国で約400校の校歌も作られており、蔵王小学校をはじめ、福山市内でもたくさんの校歌が先生によって作られています。

弘田先生(1892~1952)は高知県生まれで、1920年頃より多くの作品を書き、「叱られて」や「浜千鳥」など有名曲を作曲されました。ベルリン留学後、母校の東京音楽学校の教授となりました。

さて、在校生はもちろん、卒業生のみなさん、学校関係者のみなさん、今でも蔵王小学校の校歌は、口ずさめる方も多いと思います。その歌詞が、制定時と変わっているというのは、ご存じでしょうか？

下にあるのが、今とは異なる以前の歌詞です。1番2番が一部、3番の大部分の歌詞が今と異なります。以前、小学校の歴史でお伝えしたとおり、昭和31年(1956年)10月に福山市に編入され、市村から蔵王町に変わり、名前も蔵王小学校になりました。それに合わせ、昭和34年(1959年)3月に改作されたようです。

市村小學校校々歌

(※注2) 葛原 滋 作歌
弘田 龍太郎 作曲

一、朝日夕日に笑むに似て
姿、雄々しき蔵王山
高く強きに、かくれたる
此の懐しみ、親しみは
我が學び舎の教訓にて

二、郷土の歴史を尊びて
盡きぬ眺を、よろこびて
勵み、いそしみ、働くは
我が身の爲ぞ、世の爲ぞ
これ、市村の誇にて

三、吹くや、野の風、海の風
眼には見えねど、天地と
君と、御國と、師と友と
父母、兄弟の、限りなき
恩、忘れぬを誓にて



校歌

作詞 葛原しげる
作曲 弘田龍太郎

- 一 朝日夕日にそびえたち
姿おしき蔵王山
たかく強きにかくれたる
このなつかしみしたしみは
わが学舎の教えにて
- 二 郷土の歴史を尊びて
つきぬ眺めをよろこびて
はげみいそしみはたらくは
わが身のためぞ世のためぞ
みないつまでもほこりにて
- 三 大天地と親の恩
わが師の君と友の恩
海と山とにいやまさり
深きも高きこの恩を
ゆめわすれぬを誓いにて

【現行の蔵王小学校校歌】